

PigINFO Health タッチパネル入力システム

試験研究計画名：食肉衛生検査データの豚慢性疾病対策への活用とベンチマーキングシステム (PigINFO) を利用した対策の経済評価

地域戦略名：食肉衛生検査データの豚慢性疾病対策への活用とベンチマーキングシステム (PigINFO) を利用した対策の経済評価

研究代表機関名：(研) 農研機構 動物衛生研究部門

地域の競争力強化に向けた技術体系開発のねらい：

現在、食肉衛生検査所（以下、食検）における検査データの記録収集は、検査員が検査をしながら手書きで検査結果を書き留めておき検査終了後にそれをデータ入力する方式や、マイクを通した検査員の音声を別室で他の係員が聞き取り記録する方式など、施設によって手法が大きく異なっています（図1左側）。このようにして得られる様々な様式の一次データを PigINFO Health の形式に登録するためには、多大な手間や時間を要しています。そこで、病変部の検査結果を検査員がその場でタッチパネルにて入力ができるシステムを開発しました。（図1右側）。

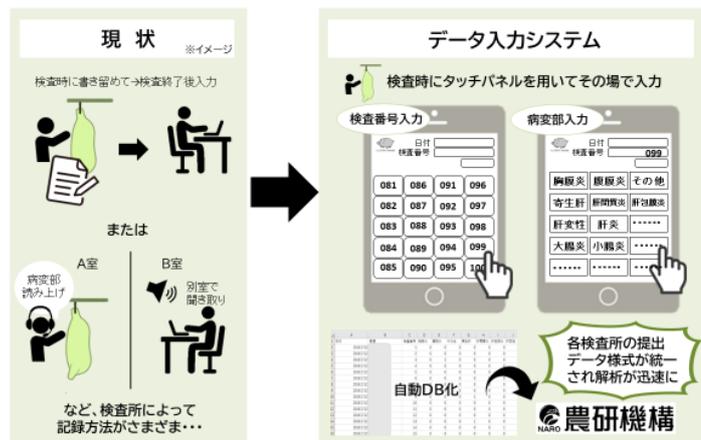


図1 食肉衛生検査所におけるタッチパネルを用いた入力システム

開発技術の特性と効果：

本システムを活用することで検査員にとってはデータの再入力が必要になるだけではなく、手書き記録をデータへ転記する際の誤入力等のミスが低減し、業務負担の軽減と効率化が期待できます。また、PigINFO Health を運用する立場にとってもデータ編集や分析作業の効率が著しく向上することが想定されます。食検データの項目の種類や数は、検査所ごとに異なりますので、この実情に柔軟に対応できるように、本システムは検査項目を自由に設定することができます。従来は、タッチパネルの入力では農場名を選

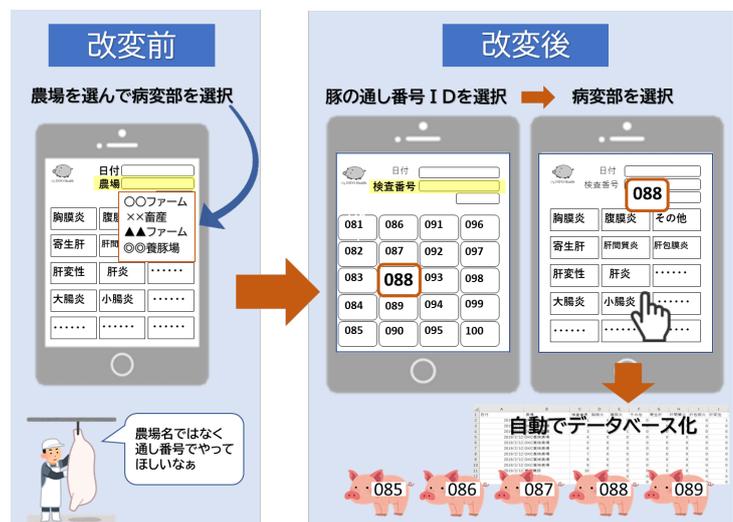


図2 豚の通し番号入力システム

出してから病変部を入力する形式となっていました。農場名ではなく豚の通し番号のみで個体を管理している検査所があり、通し番号での対応ができるようになりました(図2)。従って、本システムは全国いずれの検査所でも活用することができます。

また、現場は振動が大きく、血液や水などが飛び散ることが多いため、タッチパネルには防水機能の付いた保護器具がありません(図3)。

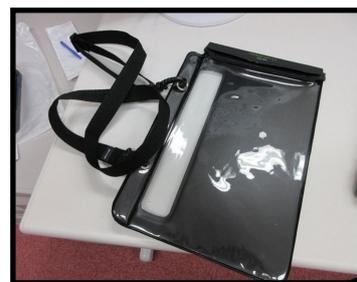


図3 タッチパネル保護カバー

開発技術の経済性：

作業終了後の夕刻に、手書きしたデータをコンピューターに入力していたものを、タッチパネルを導入する事により、入力する時間が省け作業員の労働時間短縮に繋がります(図4)。よって、入力精度が向上し迅速化かつスムーズにデータが送付され、効率化が見込めます。また、食検の検査結果を元に農場と獣医師が、病変による食肉の廃棄物の削減を目指す事により、検査業務の軽減が期待できます。



図4 タッチパネルを現場で試用

こんな経営、こんな地域におすすめ：

食検で働く検査員の業務負担の軽減や、データ管理の効率化を目指している検査所におすすめです。ご利用をご希望の方は下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

また、以下のサイトでタッチパネルを含めたPigINFO Healthの紹介動画を公開していますので、ぜひ動画をご覧ください。

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/needs/tsunagi_swine.html#%E3%81%9D%E3%81%AE%E4%BB%96

技術導入にあたっての留意点：

食検でPigINFO Healthを導入されている(農場へのデータ還元事業を行っている)ことが前提となります。

研究担当機関名：(研) 農研機構 動物衛生研究部門、(一社) 日本養豚開業獣医師協会、(株) オーケーコーポレーション

お問い合わせは：(研) 農研機構 動物衛生研究部門 山根 逸郎
電話 029-838-7829 E-mail: iyamane@affrc.go.jp

執筆分担 ((研) 農研機構 動物衛生研究部門 山根 逸郎)